

2021 ドイツ
ニッポン・コネクション観客賞
「ニッポン・ドックス賞」

2021 韓国
DMZ国際ドキュメンタリー映画祭
アジア部門
「アジアの視線」

2021 オランダ
カメラジャパン
「観客賞」

”おもてなし”の国、日本——？
収容者たちから語られる胸を突く言葉の数々
この国の”偽りの共生”が暴かれる

牛久 USHIKU

監督・撮影・編集 | トーマス・アッシュ
2021年 | 87分 | DCP | 16:9 | 日本 | ドキュメンタリー
配給 | 本業 © Thomas Ash 2021



2023年4月29日（土） 開場13:15/開会13:30 上映13:35

■映画上映 87min.
& トーマス・アッシュ監督トークイベント 60min.
エスカード生涯学習センター内

エスカードホール

牛久市牛久町280(牛久駅西口駅前 エスカード牛久4階)

鑑賞券 ¥1,000

先着順(250席)



〈チケット購入のご案内〉

常総生協

本部(守谷市本町281 TEL0297-48-4911)・

戸頭店(取手市戸頭6-3-2 TEL0297-78-3151)

にてチケット販売中(現金支払のみ)

←こちらからもご購入いただけます

バスマーケット 検索 「牛久」で検索

※クレジットカードか、paypay電子決済

※電子チケットです

<https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/024286hz4qw21.html>

主催：映画『牛久』自主上映実行委員会
連絡先(常総生協本部 0297-48-4911)
当日お問合せ(090-9373-4100 070-5079-6308)

〈取り扱い団体〉

* 駐車場はありません。地下又は近隣の有料駐車場をご利用ください。

* 熱・咳のある方はご遠慮ください。マスクの着用をお願いいたします。

日本語・英語字幕 English-Japanese subtitles

私はボランティアとして牛久入管を訪れ、収容されている人たちの話を聞き、強い印象を受けました。人権侵害の目撃者として、自分に何ができているかを考えました。そして、拘束されている人々の証言を証拠として記録し、ここで起きている真実を外の世界に伝えなければならないという使命を感じたのです。

トーマス・アッシュ



知られざる不都合な真実、 入管収容所における 人権侵害の実態

在留資格のない人、更新が認められず国外退去を命じられた外国人を“不法滞在者”として強制的に収容している施設が全国に17カ所ある。その一つが茨城県牛久市にある“東日本入国管理センター”、いわゆる「牛久」だ。この施設内には、紛争などにより出身国に帰れず、難民申請をしている人も多くいる。しかし、彼らの声を施設の外に届ける機会はほとんどない。

本年3月の名古屋入国管理局におけるスリランカ出身女性・ウィシュマさんの死亡事件、“入管法”改正案の国会成立断念など、日本の入国管理行政を巡る闇は深まるばかりだ。

本作は、厳しい規制を切り抜け、当事者達の了解を得て、撮影されたものである。

トーマス・アッシュ監督は“隠し撮り”という手法で、面会室で訴える彼らの証言を、記録し続けた。命を守るために祖国を後にした者、家族への思いを馳せる者…。「帰れない」現実を抱えた一人一人の実像。

「まるで刑務所のように」「体じゅう殴られた」、口々に驚きの実情を面会室のアクリル板越しに訴える9人の肉声。長期の強制収容や非人間的な扱いを受け、精神や肉体を蝕まれ、日本という国への信頼や希望を失ってゆく多くの人々。論議を呼ぶ“隠し撮り”で撮影された本映画だが、ここに記録された証言と現実とは、果たして無視できるのだろうか。

世界中から注目された華やかな東京オリンピック開催の影で、露わになる日本の“おもてなしの現実”と“偽りの共生”。「撮影の制約自体を映画的な形式に用い、観客をその現実に参加せざるをえなくすることで、ドキュメンタリーの力を示した」として、2021年9月の韓国DMZ映画祭でアジア部門最優秀賞を受賞した本作が、いよいよ劇場公開。

監督・撮影・編集 | トーマス・アッシュ

カラーグレーディング | オンラインエディター シン・ヘマント

作曲 | 寂空

演奏 | 寂空、こみてつ

タイトルデザイン | 丸古実、山村ジェレミー (デンバク ファノ デザイン東京)

字幕・書き起こし | 原田 麻穂、石原 雪子

インタビュアー | プロデューサー | インデュー・ダニエル

ディストリビューション | プロデューサー | 松井至

リサーチ | プロデューサー | クレーン・ジョン

2021年 | 87分 | DCP | 16:9 | 日本 | ドキュメンタリー
配給 | 大塚 | ©Thomas Ash 2021



www.UshikuFilm.com

@ushikufilm @ushikufilm

難民条約に署名している日本
国連から再三の見直し勧告を
受けている日本の入管収容

今、紛争から逃れた人を保護するために、
日本がとるべき制度の
あり方が、問われています

海外上映、17カ国 25カ所
国内39劇場で公開
日本人1万人が目撃した真実

■ 2021~2023年受賞歴

ドイツ：ニッポン・コネクションニッポン・ドックス賞

韓国：DMZ国際ドキュメンタリー映画祭アジアの視点（最優秀賞）

フランス：カメラジャパン観客賞

アメリカ：ホーム国際映画祭最優秀ドキュメンタリー監督賞

日本：外国特派員協会「報道の自由」賞

加アア：APOX映画祭最優秀ドキュメンタリー賞

日本：第77回毎日映画コンクール ドキュメンタリー部門候補ノミネート

日本：第96回キネマ旬報ベスト・テン文化映画第7位

*「NHKニュースウオッチ9」にて'22.3.29

監督インタビュー放送